編集後記

今シーズンの雪は多い、少ないといった日常のあいさつが増えてくる12月の北海道にて本編集後記を書いています。この3月号の出る時期には、「今年もたっぷり雪が降ったな」という感想を持つことが結局のところ多いのですが、降らない日々がしばらくつづいたり、大雪が降ったりすると、地球温暖化の影響なのかなどと気候の変化に敏感になってしまいます。資料コーナーには、資源エネルギー庁ホームページから2030年のエネルギー需給展望を掲載しています。CO2排出量の見通しも示されていますが、省エネルギー化へ向けた積極的な取り組みがとても重要であることが改めて分かります。

さて、ニュースレター3月号では、巻頭に今年8月21日～23日に名古屋工業大学で開催される産業応用部門大会の論文募集記事を掲載しています。多くの皆様のご講演をお願い申し上げます。

学界情報では、2005年10月に香港で開催されたIAS'2005について名古屋産業科学研究所の加納善明様からご報告いただきました。白熱した議論の様子や日本の先進的な研究展開に触れたことなど、会議の模様を詳細にご報告いただきました。

最後になりましたが，各記事をご執筆いただきました皆様、編修作業にご協力いただきました皆様に，本紙面をお借りいたしまして，厚く御礼申し上げます。

エディタ　小田　尚樹（千歳科学技術大学）

【4月号解説「IPEC-Niigata Special Issue」予告】

2005年4月4日から8日の会期で、新潟市の朱鷺メッセにおいて、電気学会主催の2005年パワーエレクトロニクス国際会議（IPEC-Niigata 2005）が開催され、国内外からの多数の参加者、ならびに関係各位のご協力・ご支援を得て、成功裡に終了致しました。この会議はパワーエレクトロニクス全般に関する国際会議として1983年の第1回IPEC-Tokyo以来、5年毎に開催されており、今回で5回目となります。因みに第1回IPEC-Tokyoの組織委員長は故宮入庄太先生、実行委員長は故佐藤則明先生、論文委員長は原島文雄先生であり、まさに日本のパワーエレクトロニクスの先駆者の伝統を引き継いだ国際会議です。その後の関係各位のご努力のお陰により、毎回のIPECでは、非常に質の高い論文が発表され、国内はもとより海外からも著名な研究者・技術者が多数集う会議として、世界的にも高く評価されております。今回のIPEC-Niigataにおいても、世界29カ国から非常に良質な論文315件と551人の参加者を得て盛大に開催されました。このような良質な国際会議の開催は、電気学会が電気学術に関する最新の研究成果を世界に発信する場として極めて大きな意義があります。

一方、学会活動のグローバル化が急速に進展する状況において、電気学会は国際化の推進を強力に推し進めており、その一環として英文論文誌の発行を重点事業としております。そこで、IPEC-Niigata 実行委員会では、産業応用部門役員会の議を経て、今回のIPEC-Niigataで発表された論文の中から、特に良質な論文を査読選別し、産業応用部門誌の英文論文特集号（IPEC-Niigata Special Issue）として発行することと致しました。IPEC-Niigataのホームページや会議会場でCall for Paperを配布・掲示したところ、多数の論文投稿を得ることができました。全ての投稿論文は、産業応用部門の論文委員会にて、通常論文と同様の査読プロセスにより採否判定され、2006年4月号、5月号、7月号の論文誌に順次掲載される予定ですので、是非ご期待ください。

今回の特集号は産業応用部門論文誌の初の英文特集号となりますが、論文を投稿頂いた著者各位、査読者各位、ならびにIPEC-Niigataと産業応用部門役員等、関係各位に厚く御礼申し上げます。

今後も種々の国際会議の英文論文特集号や一般論文の英文論文数が増加・充実することにより、産業応用部門誌が世界への情報発信の役割を果たし、電気学会の国際化推進を牽引することを願って止みません。

IEPC-Niigata 2005　実行委員会副委員長・論文委員会委員長
IPEC-Niigata 2005 Special Issue Guest Editor
清水　敏久（首都大学東京）